

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491番地2		
自己評価作成日	平成27年9月3日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300015-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①自然に恵まれた環境の中で外気浴を楽しみ、自分達で収穫した野菜や野草を生活の中で活用し、家庭的な生活を過ごして頂けるよう支援します ②地域の伝統工芸(山中和紙)を利用してポチ袋作りに挑戦するなどの楽しみを増やし、達成感を得られるよう支援しています ③地域の行事(ふるさと運動会・地域の防災訓練)等にも参加できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、廃校を改修して作られており、元校舎の設備や環境を生かし、うまく活用している。利用者は、日々、玄関前のグラウンドを歩き、ベンチで寛いでいる。冬場も広い校舎内で、生活リハビリを行い、身体機能の維持につなげている。管理者は、歯科衛生士として、口腔ケアを指導し、利用者の食欲を高め、健康的な生活の維持を実践している。今年度、地元工芸の「山中和紙」工房の女性研修生を、フリータイムで雇用し、和紙を用いたポチ袋や型紙などを、利用者と共に作製し、市のイベント会場で販売を行なった。地域交流コーディネーターと地域活性化のために連携し、グループホームの存在意義を内外に発信するように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者 職員は、入居者様が慣れた土地で楽しく余生を過ごせるように理念に基づき、実践に取り組んでいる	利用者が、余生を楽しく過ごせるように、理念に沿ったケアと、豊かな生活環境を整えている。職員は、利用者一人ひとりの持てる能力を活かし、自分で歩けるように支え、利用者本位の家庭的な生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会に参加したり、地域コーディネーターを招いて昼食会を行い、その様子を会報に載せて頂いてグループホームの存在を理解して頂くなどの交流を行っている	地元小学校の運動会に、毎年招かれている。地域交流コーディネーターと連携し、イベントの開催や企画づくりを行っている。神社の祭りでは、獅子舞が巡り、利用者の楽しみとなっている。職員の4名は地元採用であり、近隣とも親密である。	旧小学校の立地機能を活用し、イベントには、地域住民を招いている。地域コーディネーターと連携し、事業所の存在感をより高め、地域活性化への更なる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設に見えた御家族や見学者に対し、心配事などを聞き、認知症について理解して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議には、御家族や行政、駐在所のお巡りさんの参加により、入居者様の様子を把握して頂いている	会議は、定期に開催し、警察官もメンバーである。利用者の暮らしぶりを報告し、出席者間で意見を交わしている。降雪対策や利用者の通院の課題、行事計画などを話し合い、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政の方々にも参加して頂いている。又、市主催の研修会にも出席し、情報交換を行い、協力関係を保っている	運営推進会議で、市の担当者へ運営の実情を報告している。市主催の研修会やケアマネジャー会議等に出席し、情報交換をしている。市が新たに設けた、ポイント付き介護ボランティアを受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待をしないケアを実践している。定期的に勉強会を開き、職員の意識を高めると共に、入居者様の思いに添うようにしている	身体拘束ゼロのケアを、徹底している。職員は定期的に、拘束の弊害を学んでいる。利用者一人ひとりの意思を尊重し、訴えには耳を傾け、プライドを損ねないように配慮している。また、常に受容の態度で接し、信頼関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、職員の意識を高め、共通理解を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修や外部研修を重ね「本人の尊重」「利用者本位」「自立支援」といった基本理念を守るため勉強をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新期契約時には、個々の消耗品の支払い方法等十分な説明を行っている。又、一部料金改正時には新しい書類を作成し、再契約確認をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の家族会を開催、その際にはアンケートを実施し要望を聞かせて頂いている。(回収率100%)そこで得た情報をサービス運営に反映させている	家族の訪問時や家族会で、話し合いの場を設けている。また、年に1回、アンケートを実施し、結果を公表している。重度化への不安やサービス改善、また、熱中症対策についての意見があり、それらの意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々のミーティング・月例ミーティングなどで職員の意見や提案を聞き反映させている	管理者は、職員全体ミーティングで、運営全般を話し合っている。ケアの気づきや工夫、職員の健康管理、備品の補充、運営費の予算要求など、様々な意見や提案を検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のミーティング・月例ミーティングの際には、職員の意見交換を行い、要望などは経理担当者・代表にも伝えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催、グループホーム協議会主催等の研修にも積極的に参加し、レベルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われているグループホーム協議会主催のケアマネ会議へ参加し勉強会や相互訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御家族御本人との面談を行い思いを聞き取り、共に支援の方向性を考えながら信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とより多くのコミュニケーションを取ることで、少しでも気持ちに近づけられるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、御本人や御家族の思い、状況などをよく確認し、ここでのサービスに合うか見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等、できる事は極力一緒にやっている中で、支援する側される側の意識を持たず、お互いが、和やかな生活ができるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を電話や写真入りのお便りでお知らせしたり、来訪された時には御家族に日々の様子をお伝えしたりと、共に御本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々、派出所のお巡りさん、出張理容店の方と、地域の祭りに参加する事や、地域の防災訓練の参加、場所を提供して小学生の演芸会を開催するなどをしながら、関係を継続している	地域の馴染みの人たちが、気軽に訪れており、小学生との交流や演芸ボランティアも馴染みである。近所の顔見知りや、野菜や花の差し入れで訪れることもある。また、行き慣れた料理店での、外食の機会を設け馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を大切に、楽しく過ごせる様に、仲間づくりが出来るように、廊下に、いこいの広場などを準備して利用して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了してもその後の生活に支障が出ないよう情報の提供や相談、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが話し掛けやすく、言いたいことを言ってもらえるような人間関係を築き、「どうなりたい」「どう思っている」等の意向を確認し、言葉の裏にある希望を見出せる様努めている	日々の言動や表情から、利用者の思いを把握している。職員は、利用者が、自分の思いを表出できるように、笑顔で接し、信頼関係を築き、安心感を与えている。こだわりのある人にも、耳を傾け、思いに寄り添った暮らし方ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族、御本人の在宅のケアマネさんと、故郷の話や、生い立ち、趣味の話など、雑談しながら色々な話を聞かせて頂き、価値観を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間ごとの担当者が状態を日課表に書き残し、その日の状態を把握して途切れる事の無い支援を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームのメンバーや御家族、御本人が、「本人がどうしたいのか、どうなれば幸せなのか」など同じ課題に向かって評価を行い、その人らしい生活が出来るよう介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。欠席の家族には、事前に意向を確認し、本人の課題は、整理・総括表で管理をしている。さらに、モニタリングを踏まえ、身体機能を維持し、健康な暮らしができるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の「日課表」を毎日、午前・午後・夜間と記録し、職員間で情報を共有して、どの職員が対応しても、その日に合った同じような支援が出来るよう実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況を把握し、その時々にも生まれるニーズに柔軟に対応するよう取り組んでいる。また、一人ひとりのしたい事(畑仕事・散歩・体操など)希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加(祭り、運動会等)ボランティアによる落語、演芸の訪問等があり、馴染みの方々との懐かしい関係を支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの掛かりつけ医を継続しており、受診時には必要な情報を提供して適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時には御家族に連絡し搬送先の指示を頂き救急隊員に伝えている。	個々に、かかりつけ医があり、定期受診は、家族が対応し、職員も同行している。医療情報は、関係者で共有し、救急隊員には、利用者の状況を詳細に伝え、急変時の搬送先は、自宅に近い、総合病院を指定している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々のかかわりの中で得た情報、気がかりな事を看護職員に報告し指示を得て利用者が適切な受診や看護を受けれるよう協力し合っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、必要な情報を提供し適切な医療を受けれるよう協力している。又、退院した日から穏やかに生活して頂けるよう病院関係者・本人・家族・施設職員が退院に向けて話し合いを行えるような関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は入居時に施設でできる事を十分理解をして頂き、早い段階から御本人御家族と話し合いを行い、御本人に一番いい方法を支援していけるよう情報を共有している	重度化や終末期の方針があり、契約時に、看取りの体制がないことを、本人・家族に説明し、同意を得ている。退居は、常時医療が必要になった時とし、他の移転先が確保できるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に救急救命法を受講し、応急手当や初期対応が出来るよう備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救急救命講習、消防訓練、緊急時連絡網訓練、地域の防災訓練にも参加している	災害訓練は、消防署立会いで実施をしている。避難や消火、通報等の訓練を行い、夜間も想定している。備蓄もあり、隣接の体育館には、避難用具や必需品を確保している。地域には、消防署直通的の有線屋外放送がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、職員の共通理解を保ち、言葉かけ対応を行っている	職員は、常に明るい表情で語りかけ、むやみに否定や指示をせず、利用者の気持ちが安定するような対応に努めている。プライバシー確保のために、部屋の入口には、カーテンつけ、下着類の目印を目立たないようにするなどの工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いやその人の自己決定を大切にするため、日頃より入居者様の表現できないことなどを日々の支援の中から察して引き出せる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や施設の都合を優先するのではなく、一人ひとりの行動や思いに沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人や御家族の希望に沿いながら、職員のアドバイスも聞いていただいたりして支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内での野菜作りの種類も増え、収穫を楽しむにしてみえ、野菜の下処理、配膳、下膳を職員と一緒にやっている	事業所の畑で育てた野菜を食材にし、職員と利用者が、一緒に調理している。野菜の下処理や配膳等を、利用者が進んで担っている。漬物はホームの自家製である。職員と一緒に食べながら、楽しく語り合い、食べ残しもなく、満足感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を把握し体重管理を行っている。夏期は熱中症対策、水分補給にも注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりに応じた対応を行っている。義歯洗浄、洗面具の消毒も実施している		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを職員が共通理解し、自立支援に取り組み、個々に合わせた衛生用品を使用し工夫している	一人ひとりの排泄リズムに合わせ、トイレへ誘導し、自立を支援している。夜間も、タイミングよく促し、失敗を減らしている。汚染があれば、その都度、シャワーや清拭を行い、利用者の状態に合わせたパッドを使い分け、おむつの削減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の健康状態に合わせて介助を行い、入浴が楽しみの一つとなるよう個々に声掛け支援をしている	入浴は、利用者の体調や、その日の気分に合わせるようにしている。入浴を拒む人には、無理をせず、話題を転換したり、介助者の相性にも配慮をしている。浴槽は、大衆浴場並みの大きさがあり、気のあった同士が、ゆったりと楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期、夏期、空調を調整いつでも居室で休めるよう支援している。夜間も睡眠の妨げにならないように一人ひとりに合った支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は誤薬が無いよう名前、用法、日付を記入し、一つずつ確認のうえ配薬し介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った仕事、作業等、日々の役割を持って頂くことにより、自信が付き、励みにもなる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や意思確認の上に浴い、戸外へ出かけられるように努めている。又、御家族からのアンケートをふまえて、外出支援を行っている	ホーム前にある広いグラウンドでの散策や、ベンチでの外気浴が日課になっている。周辺の社寺への参拝や、近くの店へ外食に出掛けていることもある。小学校の運動会や、バラ園などへの外出支援も毎年行っている。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の時に、お店に寄り、皆さんの欲しいものを買って頂く支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の意思を尊重し、電話をかけたり手紙のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所については入居者様に刺激、不快感が起こらないように配慮し、季節の花などを飾って、癒しを感じる空間作りをしている	校舎を改修したホームで、広い共用空間がある。地場産和紙の廃木をスタレにし、利用者の笑顔の写真で満たしている。寛げる談話室と畳の間があり、廊下には、マッサージ器が2台ある。季節の花や手づくり作品を要所に飾り、癒しの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、共通の話題で皆さんと過ごされたり、独りの時間を楽しまれたり、それぞれの時間を過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分の家の感じを出しつつ、馴染みの道具を配置し、不安なく過ごせる様に工夫している。又、御家族の方々の来訪の際には、居室にてゆっくり過ごして頂いている	居室には、馴染みのものを、好みに配置をしている。窓からは、山々や刈り取り前の、稲穂が見えている。入口には、暖簾と見やすい表札を掲げ、自分の部屋として、認識できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を尊重、かつ、安全な環境づくりをし、御家族の方にもご理解いただき、気持ち良く生活して頂けるよう支援している		